

まちひとしごと

Vol. 18

琴和町内会

会長 大河原 哲朗さん

人と人との結びつきが 地域をさらに元気に



町の民生委員として、また倶知安の町内会の中で最多会員数の

の琴和町内会会長として、人と地域、地域と町を繋ぐさまざまな活動を行う大河原哲朗さんに話を聞いた。

大河原さんは昭和13年に倶知安町で生まれ、高校卒業までをこの町で過ごした後、北海道職員に採用され北海道後志支庁（現在の北海道後志総合振興局）に勤務し、その後釧路、渡島、上川の各支庁や本庁での勤務を経て平成10年に退職した。

「いつかは郷里の倶知安に戻りたいと考えていました。当時は両親も倶知安に住んでいたこともあり、退職後すぐにこの町での生活を始めました」

生まれ育った町の生まれ育った地

域に戻った大河原さんは、現在、約430戸の世帯で構成される琴和町内会の会長として、除雪困難高齢者宅の除雪支援や地域の独居高齢者宅の見守り活動、女性部による老人施設での奉仕活動など、さまざまなボランティア活動に取り組んでいる。

「この町を含め、全国的に少子高齢化は避けることができない問題だと考えており、現在取り組んでいる除雪支援や見守り活動も、その時代に合わせて必要とされていることだと感じています」

大河原さんは、今後も地域の声をしっかりと聴き取りながら、できることはやっていきたいと話す。

「住民の困りごとなどは、その全てを行政に頼るのではなく、まずは同じ地域で暮らす私たちにできることを探し、やってみることを大切にしています。この考えは琴和町内会に受け継がれてきたものです」

琴和町内会は、地域住民が自分たちで資金を準備し、町内会館を建設した経緯などがあり、その当時から何でも行政にお願いするのではなく、できることは自分たちの力でやってみようという考えがしっかりとあった。

「さまざまな取り組みを行う中で、支援を受けた人たちからは、人と会えること、お話をできることが何より嬉しいという声を聞くと同時に、ボランティア活動だけでなく、町の

イベントへの参加などにより、地域の人たちの絆も深まっていると感じています」

町内会は、まちづくりを支える重要なコミュニケーションである。一方で全国的にその加入率は減少傾向となっており、倶知安町では町民がいつまでも安心して快適に暮らすため、町内会への加入促進を目的とした条例の制定を目指している。

「老若男女を問わず、人と人が関わり合うことが、町内会で行う取り組みの成果として重要と考えています」

みんなでやるから楽しくできる。大河原さんはこの取材の中で、そう話していた。町内会という組織の中で、関わる多くの人が笑顔になることが、地域の元気に繋がっていくのだろう。